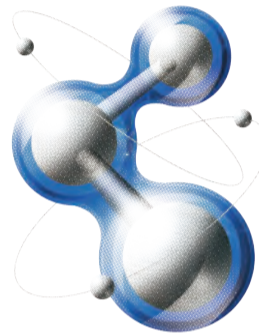


新たな日の出

モノづくりの進むべき道



モノづくり日本会議

モノづくりへの挑戦

2021年4月に創業110年を迎える地下水開発の日さく(さいたま市大宮区)。地下水をくみ上げるための井戸の設置工事を手がける。建設業でありながら自社工場を持ち、モノづくりに取り組む点は同社の強みだ。井戸に必要な器具や装置を製造し、工事と製品の両面から水の安定供給を支えている。モノづくりが本業にどのように貢献しているのか、若林直樹社長に聞いた。

自社工場保有

戸内の水位の下に水中ポンプを入れて地上にくみ上げる構造だ。その際に用いるスクリーンは特殊な形状を持つつきっかけは何ですか。

「井戸は透水性の良い砂層や礫層に穴開きのパイプ(スクリーン)を設け、井戸を作るようになった。その

戸内の水位の下に水中ポンプを入れて地上にくみ上げる構造だ。その際に用いるスクリーンは特殊な形状を持つつきっかけは何ですか。

若林 直樹 氏

日さく社長

後、日本の経済成長に伴い技術が発展したため、外注でも良かったが、工場を存続してきた。他の施工会社にも当社の製品を使ってもらうためだ。現在も自社向けと外販で対応している。「本業にどのように貢献していますか。」

工事・製品、水の安定供給支える



1人で複数の業務ができる「多能工化」による生産性の向上を進めなければならない...と話す若林さん

「井戸の工事だけでは、本業である地下水の開発への貢献が十分であると言えない。当社が手がけていない工事でも製品を供給することで、地下水の開発をお手伝いし社会貢献できる。下水を保全管理する井戸坑また製品を通じ、当社を知ってもらえば、工事の受注機会に恵まれる可能性もある。もうひとつは自社製のスクリーンは他社製品であるため、現場でのコスト削減の検討中だ。井戸の設置方法はオンリーワンの製品で競合品はない。同装画を製作し、販促ツールとして活用し導入拡大を目指す。手動ポンプは海外向けの製品を国内で販売しており、今後は国内に合ったデザインに改良して投入する予定だ」

動画で販促

加工機にIoT機器、稼働率改善

「環境マネジメントの国際認証規格『ISO14001』の認証を取得したことで社員の品質に対する意識が高まった。社内検査体制の課題を解決でき、若手社員の教育に役立っている。また発光ダイオード(LED)照明のほか、再生可能エネルギーの活用を進めている。工場内に地中熱施設を設置し、取り出した熱をエネルギーとして事務所の空調に使用し、二酸化炭素(CO2)の削減につなげたりしている」

迅速対応

「一人ひとりの作業が専門化している。1人で複数の業務ができる「多能工化」による生産性の向上を進めなければならない。通常と異なる作業でも補助ではなく、主力として対応できるようにする。もうひとつは現場トラブルに迅速に対応できる体制の強化だ。井戸を掘る現場で新たに器具を作る必要がある。その際に外注ではなく、工場対応できればコストを圧縮できる。そのため工場の体制を拡充し、トラブルに対応できる範囲を広げていく」

“多能工化”で生産性向上